

上野の大川寺砂岩層

立山橋付近の常願寺川河川敷

富山地方鉄道上滝線の大川寺駅そばの常願寺川河川敷には、音川層相当層の大川寺砂岩層の露頭があります。やや大きめの粒の砂岩の中に貝化石密集層が見られます。貝の殻が溶解して印象化石となっている物が多いのですが、殻表の模様が印象化石として残っていることも多く、種の同定は比較的容易に行うことができます。クサビガタオオノガイやエゾタマキガイ、カガミガイなど二枚貝の化石が多く産出します。露頭はオーバーハング気味で落石も多いので、河原の転石を探すと良いでしょう。エゾタマキガイやカガミガイはクリーニングもしやすく、岩石ハンマーだけでもきれいに採集することができます。



クサビガタオオノガイは絶滅したのですが、近縁種のキタノオオノガイは現生しており、その生息域は本州東北以北の潮線以下とされています。また、エゾタマキガイは現生し本州東方以北の水深30~50m程度に、カガミガイも現生し本州以南の潮線下~10m程度の内海に生息しています。これらのことから考えると、化石となった貝が生きていた頃の大川寺駅付近は、冷たく浅い海であったのではないかと予想できます。

小学校の教科書ではここまでの取り扱いはしませんが、「古生物図鑑」と「貝類図鑑」があると、生息環境を再現することができます。学校の図書室にこのような資料があるといいですね。



化石密集層のある露頭



カガミガイの印象化石



転石の中の化石



カガミガイとエゾタマキガイの化石



クサビガタオオノガイの化石



巣穴の化石